

放送視聴票 第3回 (bijyutu202505 + bijyutu202506)

■ bijyutu202505 : 光と影

【光と影から受ける印象】

「陰」と「影」の違いを学びながら、光の使い方によって作品の印象が大きく変わることを学びます。
レンブラントは強い陰影を使ってドラマチックな印象を表現し、ルノワールは木漏れ日のような柔らかい影を色で描き分けました。
私たちが日常で感じる光や影の面白さ、美しさは、感情を揺さぶるものとして作品表現に応用できます。

【光と影の関係と文化の違い】

西洋の絵画では、ルネサンス期以降、光と影のリアルな表現が重視されてきました。
一方、東洋では線描を中心に構成され、陰影が強調されない特徴があります。
番組では、レンブラントの『夜警』と、菱川師宣や歌川広重の作品を比較し、文化の違いによる表現の多様性についても考えます。

【レンブラントライティング】

『夜警』に見られる、斜め上から光を当てる演出は「レンブラントライティング」と呼ばれ、現代の映画や舞台演出にも影響を与えています。
人物の感情や場面の臨場感を強調するこの技法は、視覚的に非常に効果的です。

■ bijyutu202506 : 人を描く

【人体を知る】

美術において「人体を知る」とは、リアルな再現や理想的な身体を描くことではありません。
人物の個性や感情、描き手の感じた「その人らしさ」を、どのように表現するかが大切です。
それは誇張や構成、色使い、視線の向きなどの工夫を通して表されます。

【文化によって異なる描き方】

バスキアのような一見稚拙な作品が評価される背景には、その時代や文化、美術界の価値観の変化があります。
かつて否定された印象派の技法も、今では愛される表現のひとつです。
表現には「正しい」も「間違い」もなく、時代ごとの価値観や社会背景に応じて意味が変わるのです。

【主題をもって描く】

人物を描く際には、何に心を動かされたのか、自分はその人をどう見ているのか、主題を持つことが重要です。
番組に登場する画家・木下晋さんが難病の妻を描く理由も「真剣に生きている姿が美しいから」。
その主題が、絵に命を吹き込むのです。